

令和6年度

社会福祉法人長野りんどう会

事業報告（案）

令和7年6月

目 次

項 目	ページ
はじめに	1
一 法人運営	2
二 各サービス事業の実績	
1 指定生活介護事業(フレッシュとくま)	11
2 指定短期入所事業(フレッシュとくま)	12
3 指定自立訓練(宿泊型)事業(フレッシュとくま)	13
4 指定自立訓練(生活訓練)事業(フレッシュとくま)	15
5 指定共同生活援助事業(グループホーム)	16
6 指定自立生活援助事業(自立生活支援室)	18
7 指定就労継続支援B型事業 ワークス上駒	20
8 指定就労継続支援B型事業 ゆったりんどう	21
9 指定就労定着支援事業(就労定着支援室)	23
10 指定一般相談支援事業(相談室)	24
11 指定特定相談支援事業(相談室)	24
12 指定居宅介護事業(ヘルパーステーションてくてく)	25

はじめに

1 事業の取組及び成果

当期の事業状況につきましては、地域周辺に就労継続支援B型事業所の新規開設や、就労継続支援A型事業所等へのステップアップも含めて通所先の変更があり、利用者は減少しました。就労事業所以外でも、下半期の利用者数が定員に達しなかった事業所がありました。

給付費収入につきましては、生活介護事業が、事業所の開所時間から利用時間に応じた給付費に変更となったため、利用者数が増えているのに、収入減となりました。一方、宿泊型自立訓練事業において、特別加算の対象となる医療観察制度による利用者を引き受けていることと、職員配置の工夫で補填ができました。

一方、費用の面におきましては、人件費では職員給料等が増額となりました。事業費では物価高騰で食費や諸経費、光熱水費すべてにおいて増額となりました。

当期の業績につきましては、自立支援給付費収益は1億9,161万円となり前期に比べ326万円増加しました。当期活動増減差額は558万円となり前期に比べ1,467万円(27.6%)減少となりました。

主な事業の状況

2 主な事業の取り組み内容

(1) 生活介護事業(定員17人)

健康維持の支援、送迎サービスの実施等により利用者確保に努めた結果、減少していた利用者が増加しましたが、生活介護の基本単価が下がったことと利用時間に応じての給付費となったため収入としては下がりました。今後の課題として、利用者の高齢化などにより、フレッシュ4階の事業場所は検討が必要になっています。

(2) 自立訓練(宿泊)事業(定員17人)

本年度は、医療観察制度等による利用者の途中退所や入所継続が困難になった利用者の途中退所が相次ぎ、年度当初に比べて年度末には大幅に入所者が減少しました。

(3) 自立訓練(日中)(定員6人)

年度当初に、利用期限となる2年間を迎えた利用者が2人いましたが、ゆったりんどうの就労継続支援B型事業所に移り、1週間に2～3日の継続利用となり自宅から通われています。

(4) 共同生活援助事業(グループホーム)(定員27人)

新に一人暮らしに近い形で生活したいとの希望があり、サテライト型グループホームを開設し定員を1人増やしました。体験者を受け入れ入居に繋げることができました。

(5) 就労継続支援B型事業「ワークス上駒」(定員34人)

新規利用者が増えておらず定員に満たない日が続いています。清掃作業、除草作業の収入減はありましたが新規の民泊の清掃作業など、新規作業を開拓し工賃の減少は最小限に抑えることが出来ました。次のステップへの希望がある利用者にはハローワークの登録等を行い就労や就労継続支援A型の紹介などもおこないました。

(6) 就労継続支援B型事業「ゆったりんどう」(定員14人)

数年ぶりに地元小学校より、学校行事への参加の依頼をいただき参加しました。コロナ禍で途切れていた地域とのつながりを再開し、今後も継続していけるように準備していき

たいと考えています。

3 新年度の取組

給付費収入の安定を図るため、現在の職員で加算等の給付費が増加するよう人員配置を工夫します。また、職転により正職員への昇格や育児・介護休業規程の見直し、休日勤務手当の支給等の待遇改善による職員の勤務意欲向上や離職防止等を図っていきます。

新年度の業績予想といたしましては、利用者数の減少による給付費の減を新規利用者確保や通所利用率アップで今年度と同額の収入を維持したいと考えています。

引き続き第4次3か年計画に沿って、事業を検討し、実施していきます。

一 法人運営

1 会議等の開催状況

(1) 評議員会(2回開催)

R6. 定時 R6. 6. 24 令和5年度決算及び事業報告

R7. 3 月 R7. 3. 24 定款の改訂、令和7年度事業計画及び資金収支予算、共同生活援助事業地域連携推進会議について、職員の異動

(2) 理事会(3回開催)

第102回 R6. 6. 5 令和5年度事業報告及び決算、管理運営規程の改訂、給与規程の改訂、令和6年度定時評議員会の招集

第103回 R6. 10. 23 管理運営規程の改訂、給与規程の改訂、理事長及び常務理事の職務執行状況報告

第104回 R6. 3. 13 定款の改訂、管理運営規程の改訂、就業規則の改訂、嘱託職員就業規則の改訂、非常勤職員就業規則の改訂、育児・介護休業等に関する規程の改訂、給与規程の改訂、令和7年度事業計画及び資金収支予算、評議員候補者の推薦、重要な職員の選任、令和7年3月評議員会の招集、理事長及び常務理事の職務執行状況報告、共同生活援助事業地域連携推進会議について

(3) 監査

監事は、理事会並びに評議員会に出席し、理事の職務の執行状況を監査した。また、決算等の監査結果を報告した。

R6. 5. 21 令和5年度事業及び会計処理全般の監査を実施

(4) 施設運営会議

- ・開催回数 42回(毎週水曜日午後定例開催)
- ・構成員 正副理事長、常務理事、施設長(管理者)、事務長

2 法人運営事務

(1) 規程等の制定、改訂

- ・定款の改訂 第 104 回理事会 令和 7 年 3 月評議員会
- ・管理運営規程の改訂 第 102 回理事会 第 103 回理事会 第 104 回理事会
- ・給与規程の改訂 第 102 回理事会 第 103 回理事会 第 104 回理事会
- ・就業規則の改訂 第 104 回理事会
- ・嘱託職員就業規則の改訂 第 104 回理事会
- ・非常勤職員就業規則の改訂 第 104 回理事会
- ・育児・介護休業等に関する規程 第 104 回理事会

(2) 登記関係

- ・こまざわハウス滅失登記 (R6. 12. 13 登記申請)

(3) 協定・賃貸借契約等関係 (主なもの)

- ・長野市有財産賃貸借契約 ワークス西駐車場分 (契約期間 3 年) 更新
契約日 H28. 4. 1 (面積変更 R2. 12. 1) 当年度分 687, 052 円
- ・駐車場賃貸借契約 第 2 駐車場分 (自動更新) 4 台+プレハブ敷地 (2 台)
契約日 H26. 4. 1 契約変更 H28. 6. 1 (一部返還)
追加契約 2 台 R4. 6. 1～
追加契約 1 台 R6. 2. 1～ 追加後 月 27, 000 円
- ・「いなだの家」建物賃貸借契約 (20 年契約)
契約日 H16. 4. 14 月 130, 000 円
変更契約日 R6. 3. 31 (自動更新) 月 130, 000 円
- ・「のくとまーる」当初の建物賃貸借契約 (自動更新)
契約日 H24. 3. 26 月 150, 000 円
- ・「のくとまーる」の定員増分及び 207 号(物置)の建物賃貸借契約 (自動更新)
契約日 H24. 9. 25 月 140, 000 円
- ・「いなだの家サテライト」ハイツ若夢 205 号室 (上野) (契約期間 2 年)
契約日 R6. 10. 1 月 35, 000 円
- ・職員勤怠管理システム関連 (フレッシュ本部・ワークス上駒・スローステップ)
クロノクラウド等サービス 契約先 (株)ミロク情報サービス
契約日 R2. 9. 9 (R5. 3～SS追加) 月 17, 545 円
タイムレコーダー 月 12, 100 円
- ・自動販売機設置協定 (本部・ワークス上駒に各 1 台設置)
協定日 R3. 3. 5 協定先 ダイードリンク(株)
販売手数料= 1 月の総売り上げの 18%
- ・カラオケ機材賃借料(フレッシュとくま) 月 28, 600 円・・・第一興商
- ・スマートエコシステムリース料(本部建物・ワークス上駒) 年 50, 688 円
・・・オリックス
- ・福祉大臣ソフト保守料(2024. 3. 1～2025. 2. 28) 年 132, 000 円・・・リコージャパン
- ・ワイズマン給付費ソフトリース料 月 51, 920 円・・・リコージャパン

・自動車リース契約	・・・カーソリューションズ(株)			
R3.9/17～	60か月	セレナ	フレッシュとくま等送迎用	…新車リース 月 51,150 円
・自動車リース契約	・・・八十二オートリース(株)			
R7.1/24～	60か月	ミライース	フレッシュ(宿泊)	…新車リース 月 38,170 円
R7.1/1～	24か月	ヴィッツ	フレッシュ(宿泊)	…再リース 月 25,740 円
R6.4/19～	84か月	セレナ	スローステップ(送迎)	…新車リース 月 68,200 円
R4.1/28～	60か月	タント	グループホーム	…新車リース 月 27,830 円
R4.1/28～	60か月	タント	相談室(特定相談)	…新車リース 月 27,830 円
R4.2/1～	72か月	ハイゼットカーゴ	ワークス(継続B)	…新車リース 月 24,420 円
R4.2/1～R7.1/31 終了		ライフ	フレッシュ(宿泊)	…リースバック 月 10,120 円
R4.2/1～	41か月	サクシード	ワークス(継続B)	…リースバック 月 19,140 円
R4.2/1～	51か月	アルト	ワークス(継続B)	…リースバック 月 11,220 円
R4.2/1～	49か月	アルト	てくてく(居宅)	…リースバック 月 11,440 円

(4) 業務委託等の契約

・廃棄物処理委託定期(宝資源開発(株))	H24.6.11(契約)		
	H31.2.1(覚書)		
	R4.4.1(改訂)	基本	月 15,147 円
・清掃業務委託(本部建物)・・・直富商事		10月実施	350,900 円
・警備委託 夜間防災支援体制(新日本警備保障(株))			
フレッシュとくま(本館)	H26.2.10(当初契約日)	月	9,900 円
グループホーム(こまざわハウス・いなだの家・のくとまーる)			
	H26.2.10(当初契約日)	月	27,280 円
・税理士会計指導料(長野東会計・小林税理士)		月	41,800 円
・健康診断委託(財全日本労働福祉協会)	H13.1.17(自動更新)		
	R6年度実績	36人	267,402 円
・小型エレベーターメンテナンス ワークス上駒(ハナソニックホームエレベーター(株))			
	H23.4.1(自動更新)	年	111,100 円
・荷物昇降機保守点検(株)マリファコーポレーション)	H13.2.1(自動更新)	年	74,800 円
・自動ドア保守管理業務委託(本部・ワークス上駒)			
	(株)長野ナブコ)	H30.6.1(自動更新)	年 158,400 円
・受水槽清掃保守点検(株)三京)	H25.9.1(自動更新)	年	33,000 円
・消防用設備保守点検			
スローステップ分(ホーチキ(株))	H23.4.1(自動更新)	年	57,200 円
本部分(ホーチキ(株))	H28.4.1(自動更新)	年	330,000 円
ワークス上駒分(株)ナショナル防災)	H23.4.1(自動更新)	年	49,500 円
こまざわハウス(新日本警備保障(株))	H26.3.1(自動更新)	年	22,836 円
いなだの家(新日本警備保障(株))	H26.3.1(自動更新)	年	37,708 円
のくとまーる(新日本警備保障(株))		年	62,480 円
・ホームページホスティングサービス(株)いとう	R4.2.1～	月	3,300 円

- ・ホームページドメイン管理料 (株)いとう 年 7,700 円
- ・ホームページサーバー証明書更新料 (株)いとう 年 38,500 円

- ・コピー機保守 本部 (株)葛友 H29.9.14～
1枚あたり/白黒2.1円、カラー14円、2色モノカラー7円
- ・コピー機保守 ワークス上駒 (株)葛友 R6.4.23～
1枚あたり/白黒2.5円、カラー15円、2色モノカラー8円
- ・コピー機保守 スローステップ (株)葛友 R4.4.22 (5年間) 白黒1枚2.8円

3 施設及び設備整備について(新規)

(1) 固定資産購入等

(建物)

- ・シャッター式物置 取得年月日 R6.12.27 取得価格 2,420,000 円

(構築物)

- ・旧こまざわハウス跡地 フェンス 取得年月日 R6.11.30 取得価格 435,200円
- ・旧こまざわハウス跡地 整地 取得年月日 R6.11.30 取得価格 429,600円
- ・いなだの家駐輪場サイクルラック 取得年月日 R6.11.30 取得価格 193,600円
- ・喫煙スペース目隠しフェンス 取得年月日 R6.11.30 取得価格 332,400円

(器具備品)

- ・デジタルカラー複合機 (ワークス) 1式 R6.4.23 605,000円
- ・パソコン (ワークス) 1台 R6.5.9 137,632円
- ・パソコン (フレッシュとくま) 1台 R6.5.9 137,632円
- ・パソコン (ゆったりんどう) 1台 R6.5.9 137,632円
- ・AED (フレッシュとくま・ワークス) 2台 R6.7.31 376,200円

4 資金の状況について(R6.3.31)

- ・寄附金収入 362,670 円
- ・当年度資金収支差額 △11,575,897 円
- ・当年度施設整備等資金積立額 20,000,000 円
- ・年度末施設整備等積立金総額 20,000,000 円
- ・年度末純資産総額 610,153,515 円
- ・年度末借入金残額 8,694,000 円

5 人事管理について

- (1) 職員の資質の向上と公正な人事管理を目的とした人事管理システムにより次のとおり実施した。

ア 人事考課 (業務管理) の実施

- ・前期 (4月～9月) 業務の自己評価と施設長による評価を行った。

- (2) 雇用状況について (R6.4～R7.3)

- ・採用 正職員 1 人、嘱託職員 0 人、非常勤職員 2 人
- ・退職 正職員 0 人、嘱託職員 0 人、非常勤職員 4 人
- ・職転 嘱託職員⇒正職員 0 人、非常勤職員⇒嘱託職員 0 人
- ・R7.3.31 在籍職員数（3 月末退職者含む） 41 人
正職員 23 人、嘱託職員 5 人、非常勤職員 13 人（内当直職員 4 人）

6 職員研修について

職員研修実施要綱（基本計画）に基づき、「令和 6 年度研修計画」を策定し、計画的な職員研修を行った。

（1）内部研修

- ・各事業所内での O J T による研修の実施（新規職員等）（年間）
- ・朝の職員連絡会議での事象等報告（毎日）
- ・各事業所単位ミーティングでの研修（週 1 回）
- ・月例職員会議での研修、周知伝達等（月 1 回）
（制度改正等の解説、BCP（業務継続計画）災害対応、AED 使用方法、ヒヤリハット事例、人権啓発・虐待防止、安全運転、業務手順の周知伝達 など）

（2）外部での一般研修受講

- ・受講した研修等の項目と延べ日数 52 項目・109 日
- ・研修等受講者延べ数 77 人
- ・一人当たり平均研修日数 1.42 日
- ・52 項目研修開催地（長野市内 34、長野市以外県内 7、県外 0、オンライン 11）

（3）国家資格取得研修

- ・介護福祉士資格取得のための実務者研修 1 人
- ・社会福祉士、介護福祉士資格取得 2 人

7 施設及び事業経営について

（1）施設等の経営状況

- ① 指定生活介護事業（フレッシュとくま） 定員 17 人
日平均利用者数 18.2 人
- ② 指定短期入所事業（フレッシュとくま） 定員 3 人
日平均利用者数 1.3 人
- ③ 指定自立訓練（宿泊型）事業（フレッシュとくま） 定員 17 人
日平均利用者数 9.8 人
- ④ 指定自立訓練（生活訓練）事業（フレッシュとくま） 定員 6 人
日平均利用者数 5.1 人
- ⑤ 指定共同生活援助事業（グループホーム） 定員 26 人（R6.10～ 定員 27 人）
日平均利用者数 22.3 人
- ⑥ 指定自立生活援助事業（自立生活支援室） 定員 なし
月平均登録実人数 1.1 人

⑦ 指定就労継続支援B型事業 ワークス上駒 定員 34 人

日平均利用者数 27.1 人

⑧ 指定就労継続支援B型事業 ゆったりんどう 定員 14 人

日平均利用者数 13.1 人

⑨ 指定就労定着支援事業（就労定着支援室） 定員 なし

月平均登録実人数 1.0 人

⑩ 指定一般相談支援事業（相談室） 地域移行支援利用延べ月数

0 月

地域定着支援利用延べ月数

74 月

⑪ 指定特定相談支援事業（相談室） サービス等利用支援

209 件

継続サービス等利用支援

439 件

⑫ 指定居宅介護・重度訪問介護事業（ヘルパーステーションてくてく） 定員 なし

月平均登録実人数 29.2 人

（2）事故等の状況

・利用者の保険請求分 実績 なし

（3）事故、苦情等解決状況（第三者委員・ヒヤリハット事例報告）

発生日時	内 容	経過・解決
7/28(日) 午後 7 時頃	フレッシュ（宿泊）に入所間もない利用者が自室で泣いて、「病院に帰りたい」と訴える。 その後、散歩のため外出するが、帰宅時間の午後 8 時になっても帰ってこなかった。 【初動】 ・職員間で情報を共有 ・病院へ上記様子を伝え、病院へ行った場合は連絡をもらえるように依頼	・午後 10 時 40 分頃、中央警察から保護したとの連絡があり、警察官がフレッシュまで連れてきてくれた ・その日は泣きじゃくっていたため、自室で休むように伝え、宿直者の見守りとした ・今までも嫌なことがあれば、注意を引くため泣いたり、すぐ見つかるような場所へ出ていくことがあった ・辛いことがあれば、出ていくのではなく、職員に相談するよう諭し、主治医、家族に経過を報告
9/13(金) 午後 7 時 30 分頃	上記の利用者が、午後 7 時 30 分頃、黙ってフレッシュから出て行った。ツルヤの前で、死のうとしたのか走っている車の前に出ようとし、通行人に止められ警察に通報される。 フレッシュでは出て行ったことに気づかなかった。 警察から電話連絡があったが、留守番電話に切り替えた後だったため警察からの電話に気づかず保健所対応となった。 保健師が本人と面談後、主治医に連絡するも、夜間であることから翌日対応になるため、保健師が当該利用者をフレッシュへ連れてきてくれた。	・職員は、保健師が連れて来るまで、外出には気づかなかった ・翌日、面接を行うと、本人の意向は「入院はしたくない」、また、病院も連休中のため対応困難とのことで、フレッシュで過ごすこととなる ・家族、関係機関に伝え、連休明けの 9/17(火)本人の意思も「入院したい」と変わり、おおむね 1 か月の入院となる。後日、退院の目途が立たず、フレッシュは退所となった ○今後の対応として、遅番職員退勤（19 時）後は、玄関自動ドアのスイッチを OFF にし、利用者の出入りを確認する ○留守番電話の設定はしない ○休日の朝、姿を見ない利用者がある場合、在所確認を徹底する

発生日時	内 容	経過・解決
10/8(火) 午前 4 時頃	新日本警備保障より、「センサーが反応したので 1 階玄関の施錠の確認をしてほしい」と連絡が入る。 玄関の施錠等は異常ないことを確認し報告する。 宿直者がふと思ひ立ち、午前 5 時頃 1 階裏の出口を確認すると鍵が開いていることに気づく。 午前 6 時 50 分頃通行人から、利用者 M さんの保険証等が道に落ちていたと届けてくれたので、部屋を確認し M さんの不在が判明する。	・午前 7 時 30 分、ライフサポートりんどう緊急ラインにて、M さんの行方不明を全職員に周知 ・午前 8 時 30 分、搜索可能な職員で周囲の道路、店舗等を搜索する ・家族の了解を得て、警察に搜索願いを出すとともに、病院や保護観察所へ報告する。 ・翌日、あらいの道の駅で発見されたと、警察より家族に連絡が入る ・関係機関、家族と調整し、りんどう職員 2 人、社会復帰調整官 1 人、両親が妙高警察署に向かう ・本人は受診を拒否するも病院と連絡を取り、そのまま医療保護入院となった
11/19(火)～ 11/29(金) ワークス上駒 にてコロナの 集団感染発生	事業所内で 10 人以上の感染者が確認された場合、保健所と長野市に報告の義務があるため報告する。 ・11/19(火)に 1 人目の感染者が判明し、全事業所で体調の確認を行う ・11/25(月)昨日から熱、喉の痛み、咳等の症状有と 4 人から連絡が入り、当日 2 人から不調の訴えあり ・11/26(火)利用者 2 人、職員 1 人にコロナ感染の症状が出る ・11/29(金)利用者 1 人の家族がコロナ感染のため検査すると、陽性と判明する	・感染者の中に、グループホーム在籍者がいたため、のくとまーる 206 号室にて隔離対応をする ・単身生活者には、地域定着支援により必需品の買い物支援を行う ・全体で、マスク、アルコール消毒、換気、黙食の徹底を行う ○今後の対応として、毎日の体調の聞き取りでは、のどの痛みはないか、咳は出ないか、熱はないかなど具体的に確認し、より正確な情報を得るようにする ○不調時には遠慮なく休みを取ることも徹底していく

(4) 防災・安全対策

- ・地震、台風等災害のための消火、避難訓練

フレッシュとくま 1 2 回、 ワークス上駒 2 回、 スローステップ 2 回、
グループホーム (いなだの家・こまざわハウス・のくとまーる 各 2 回)

- ・消火設備等の点検 2 回実施 (専門業者に委託)

- ・感染症対策

新型コロナ等、感染症対策として、換気、利用者及び職員等の検温記録、3 密回避、マスク、手洗い、消毒等の徹底、施設内の感染防止として非接触型手指消毒機等活用した。

8 第4次3ヵ年計画の進捗状況について（令和6年度～8年度）

A 指定生活介護事業「フレッシュとくま」（定員17人）

計画期間での検討事項	検討内容	令和6年度の検討結果
1 利用者の高齢化に伴い、事業の実施場所を4階から下層階へ移転が必要	・4階から1階に移転する ・旧こまざわハウス跡地に新築する	・事業の実施場所は、他の事業所の移転と併せ検討を継続する
2 利用時間に応じた報酬減算への対応	・平均利用者数の計算方法の変更に伴う、職員配置数や利用定員の変更を検討	・今後の利用者数の変動を見極め、職員配置数や利用定員の変更の検討を継続する

B 指定短期入所事業「フレッシュとくま」（定員3人）

計画期間での検討事項	検討内容	令和6年度の検討結果
1 現在の建物、職員数で受け入れ可能な利用者を受け入れる	・定期利用者が増えている状況で、現状に即した定員変更を検討	・定員変更と同時に併設型事業所から空床型事業所への変更も視野に入れ検討継続

C 指定自立訓練（宿泊型）事業「フレッシュとくま」（定員17人）

計画期間での検討事項	検討内容	令和6年度の検討結果
1 グループホームへの事業転換などを検討	・当面の宿泊型自立訓練の継続及び今後の転換については、行政に相談をしながら検討	・事業継続はするが、入所者の実態に合わせ、定員を早急に10人にする ・短期入所の空床型への転換も併せて考える

D 指定自立訓練（生活訓練）事業「フレッシュとくま」（定員6人）

計画期間での検討事項	検討内容	令和6年度の検討結果
1 宿泊型への入居状況により利用者数が増減する	・宿泊型自立訓練事業の継続と併せ日中生活訓練も実施方針を検討する	・宿泊型自立訓練の実施中は、定員を現在の6人で事業継続していく

E 指定共同生活援助事業「グループホーム」（定員27人）

計画期間での検討事項	検討内容	令和6年度の検討結果
1 交通の便が悪く利用希望者が少ない「いなだの家」をいつまで借りるか	・20年契約の終了時に今後どのような契約内容にするか検討	・今後は、1年契約にすることで再契約した（契約解除する場合は6か月前に伝える）
2 「のくとまーる」は、高齢化に伴い、グループホーム全体の移転が必要	・一人暮らし希望の利用者には、転居を推奨するなど検討	・空いた部屋は1室ずつ解約できるように大家の了承を得た
3 「こまざわハウス」利用者の高齢化に伴う支援の見直し	・単独通院が困難な利用者に対し、世話人が通院同行できないか検討	・公共交通機関の減便や医師の指導を正確に理解できない利用者に対し、通院同行を行う

F 指定自立生活援助事業「自立生活支援室」

計画期間での検討事項	検討内容	令和6年度の検討結果
1 利用実績は多くは見込めない	・宿泊型やグループホームから一人暮らしに移行した利用者が、安心して生活するために必要なことからサービスの継続提供を検討	・同行して支援ができるサービスは、居宅介護ではできないことが多いことから、このサービスは継続していく

G 指定就労継続支援B型事業「ワークス上駒」(定員34人)

計画期間での検討事項	検討内容	令和6年度の検討結果
1 工賃アップを目指し、年間を通し、安定した作業量の確保	・年間を通した作業の受託拡大を図るための検討	・新規の外作業の拡大を図り、今後も単価のいい作業を受注するよう努める
2 利用希望者の減少に伴う対応	・1日平均利用者数を見て、定員変更を検討	・定員の変更や他事業所と多機能型事業所として運営するのか検討を継続する

H 指定就労継続支援B型事業「ゆったりんどう」(定員14人)

計画期間での検討事項	検討内容	令和6年度の検討結果
1 作業スペースの確保	・スローステップの建物を立て直すか、移転するか検討	・スローステップは老朽化が著しく、建替え又は移転を最優先で検討していく ・現在の建物は解体する
2 利用者に見合う作業量の確保	・作業量、作業スペースともに、ワークスとの調整や、今後の方向性を検討	・ワークスと連携した作業量の調整を行い、引き続き継続する

I 指定就労定着支援事業「就労定着支援室」

令和6年7月事業終了

J 指定一般相談支援事業・指定特定相談支援事業「相談室」

計画期間での検討事項	検討内容	令和6年度の検討結果
1 地域生活の継続を目指し、地域連携の強化	・地域に根差した計画の充実を検討	・ニーズに合った福祉サービスを受けられるよう調整する ・関係機関との連携、調整を行い、サービス状況の確認をする

K 指定居宅介護・重度訪問介護事業「ヘルパーステーションてくてく」

計画期間での検討事項	検討内容	令和6年度の検討結果
1 利用者数は増加しているが、今後は事業を拡充していくのか検討	・地域生活に対応し、長期間、個別対応等できるサービス提供の継続、拡充を検討	・引き続き事業を継続し、まずは職員のスキルアップを目指す

9 その他

- ・会報誌（No68～No69）の発行
- ・年報（令和5年度版）の発行
- ・地域、行政、関係団体、地元組織等との連携協力に努めた。
- ・長野市障害者自立支援協議会（長野市障害ふくしネット）への参加協力をした。
- ・視察や見学・学生実習・職員研修生等を受け入れた。

長野大学1人、長野養護学校1人・見学25人、若槻養護学校2人、長野看護専門学校、須坂看護専門学校、清泉女学院大学看護学部より複数名の実習生を受け入れた。

- ・北部中学校の職場体験学習として生徒2名を受け入れた。

二 各サービス事業の実績

1 指定生活介護事業（定員17人）（フレッシュとくま）

令和6年度は、利用者に安定した活動を提供し、体調を崩さず安定して継続利用ができるよう支援した。

1日平均利用者数は18.2人で、定員を少し上回る利用者数であった。給付費収入は25,325千円で前年度と比べて607千円減となった。

（1）主な取り組み

- ・利用者が見通し立てやすいように安定した日中活動を提供した。
- ・利用者が楽しく思えるような活動を検討し、取り入れた。
- ・軽作業を行い、活動にメリハリをつけた。
- ・精神的不調だけではなく内科的不調も早期に発見できるよう、利用者への健康観察を毎日重点的に行った。
- ・希望する利用者には、入浴や洗濯の支援を行った。
- ・利用者のニーズに合った余暇支援（外食や外出等）を取り入れた。

（2）実 績

ア 年度比較

（人）

年 度	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者数	解約者数
令和5年度	4,205	17.3	40	3
令和6年度	4,544	18.2	42	5
比 較	339	0.9	2	2

イ 月別利用実績

令和 6 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均・合計
開 所 日 数	21	21	20	22	19	19	22	20	22	23	20	21	250 日
延 利 用 者 数	383	369	369	425	359	376	417	371	374	366	339	396	4,544 人
実 利 用 者 数 / 月	33	33	34	35	37	36	35	34	37	38	37	35	35.3 人
平均利用者数/日	18.3	17.6	18.5	19.4	18.9	19.8	19.0	18.6	17.0	16.0	17.0	18.9	18.2 人

課題と今後の取組み

- ・活動場所が 4 階である。利用者を見ても階段がある事やフロアの大きさなどが実情に合わない。場所の検討が必要。
- ・継続利用者が多数のため高齢化が止まらない。高齢者対応の支援が求められる。
- ・引き続き利用者の毎日の健康観察を重視する。

資 料（令和 7 年 3 月 31 日現在）

年代別数 (人)

性別 数	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代以上
男 26	0	0	2	10	14
女 16	0	3	1	5	7
計 42	0	3	3	15	21

障害支援区分別数 (人)

性別 数	区分 2	区分 3	区分 4
男 26	17	7	2
女 16	9	6	1
計 42	26	13	3

2 指定短期入所事業（定員 3 人）（フレッシュとくま）

宿泊型訓練の体験利用だけでなく、レスパイト目的の利用者や定期利用者も受け入れした。

1 日平均利用者数は 1.3 人だった。給付費収入は 2,190 千円で前年度に比べて 946 千円増であった。

（1）主な取組み

ア さまざまな利用目的に対応し受入れをした。

イ 家族、ケアプランナー、病院のケースワーカーと連携をした。

ウ 病院からの地域移行の体験利用で受入れをした。

(2) 実績

ア 年度比較

(人)

年 度	延利用者数	1 日平均利用者数	実利用者数
令和 5 年度	285	0.7	24
令和 6 年度	464	1.3	23
比 較	179	0.6	△ 1

イ 月別利用実績

令和 6 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均・合計
開 所 日 数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365 日
延 利 用 者 数	32	37	67	60	33	39	37	31	40	36	29	23	464 人
平均利用者数/日	1.1	1.2	2.3	2.0	1.1	1.3	1.2	1.1	1.3	1.2	1.1	0.8	1.3 人

課題と今後の取り組み

- ・ 定期利用者の利用目的によっては入所に繋がるよう働きかける。
- ・ 緊急対応を求められることも多いが、行政等関係機関と連携を密にして対応したい。

3 指定自立訓練（宿泊型）事業（定員 17 人）（フレッシュとくま）

令和 6 年度は、年度当初は 11 人の入所者であった。2 年間の入所期間を全うして退所になった者もいるが、夜間無断外出したまま戻らず、そのまま入院になったケースや、入所者間のトラブルにより別の住まいを探さざるを得なくなった者、万引き等の犯罪を繰り返し、入所継続が困難になった等の退所者が相次いだ。

1 人がライフサポートりんどうのグループホーム（サテライト）に移り、別法人のグループホームへ 3 人、単身アパートへ 1 人、転居した。2 人が精神科病院へ入院、2 人が自宅へ帰った。精神科病院から 3 人、自宅から 4 人入所し、年度末には 9 名にまで減った。

1 日平均利用者数は 9.7 人であった。給付費収入は 26,292 千円で前年度に比べ 4,799 千円増となった。

(1) 主な取り組み

ア 個別支援計画に基づいて質の高い支援

- ・ 3 ヶ月ごとの振り返りを行い、要望等を聞き取りニーズに反映した。

イ 利用者の確保

- ・年間を通して医療機関、行政等との情報交換や協力をお願いした。

ウ 安全で衛生的な環境への配慮

- ・新型コロナウイルス感染予防の徹底のため、継続して食事用テーブルにパーティションを設けた。
- ・毎日2回の検温を実施した。
- ・マスク着用の徹底をした。
- ・防災設備の定期的な点検、維持を行った。
- ・防災訓練を毎月実施した。
- ・生活の場にふさわしい快適な環境を提供した。

(2) 実 績

ア 年度比較

(人)

	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者数	解約者数
令和5年度	3,272	8.9	15	4
令和6年度	3,507	9.7	17	9
比 較	235	0.8	2	5

イ 月別利用実績

令和6年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
開 所 日 数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日
延 利 用 者 数	350	332	323	356	291	255	279	270	235	264	275	277	3,507人
契 約 者 数 / 月	12	11	11	12	10	9	10	9	9	9	10	11	10.3人
平均利用者数/日	11.7	10.8	10.8	11.5	9.4	8.5	9.0	9.0	7.6	8.6	9.9	9.0	9.7人

課題と今後の取り組み

- ・医療観察法の対象者の途中退所や、利用者間のトラブルなどで退所者が相次いでいる。
- ・入所者を増やしていく必要がある。

資 料 (令和7年3月31日現在)

年代別数

(人)

性別 数	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
男 7	0	1	1	2	2	1
女 4	0	0	1	2	1	0
計 11	0	1	2	4	3	1

障害支援区分別数

(人)

区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	不明
1	5	1	1	3

市町村別

(人)

長野市	飯綱町	山ノ内町	飯山市
8	1	1	1

4 指定自立訓練（生活訓練）事業（定員 6 人）（フレッシュとくま）

自宅からの通所利用者 2 名が、ゆったりんどう（就労継続 B 型事業所）に移り週 2～3 日の利用をしている。宿泊型の利用者は就労継続 A 型事業所の利用につながったり、「病院に戻りたい」と入院により退所になった者もいた。

宿泊型入所の時点から退所後に地域生活へ結びついていけるか自体が厳しい状況の者もいるため、見通しを立てながらの対応が必要と考えている。

延べ契約者数は 14 人で昨年度より 1 人減少し、1 日平均利用者は、5.1 人で昨年より 0.7 人減となった。給付費収入は 13,234 千円と昨年度より 1,135 千円減となった。

建物の老朽化は対策を急ぐ必要がある。

（１）主な取り組み

- ・その人らしい生活ができるよう、自主性・自発性を尊重した。
- ・個別支援計画に基づき個人の目標を都度確認し、その方向性に合わせ支援をした。
- ・主に退所後の生活の場などに合わせた、生活スキルが身につくよう支援した。

（２）実 績

ア 年度比較

(人)

年 度	延利用者数	1 日平均 利用者数	延契約者数	解約者数	新規契約者数
令和 5 年度	1,391	5.8	15	5	8
令和 6 年度	1,224	5.1	14	8	3
比 較	△167	△0.7	△1	3	△5

イ 月別利用実績

令和6年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
開所日数	21	21	20	22	18	19	22	20	20	19	18	20	240日
延利用者数	140	112	106	132	97	93	110	93	92	88	84	77	1,224人
実利用者数/月	11	9	9	9	9	7	7	6	6	6	6	6	7.6人
平均利用者数/日	6.7	5.4	5.3	6.0	5.4	4.9	5.0	4.7	4.6	4.7	4.7	3.9	5.1人

課題と今後の取り組み

- ・宿泊型自立訓練の職員との連携は今後もより密にしていく。
- ・利用期間終了後の生活について、色々なパターンをより具体的にイメージできるような支援をしていく。

資料（令和7年3月31日現在）

年代別数

(人)

性別 数	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代
男 5	1	1	0	2	1
女 2	0	0	0	2	0
計 7	1	1	0	4	1

障害福祉サービス支給市町村

(人)

性別 数	長野市	千曲市	飯山市	飯綱町	中野市	木島平村
男 5	2	0	1	1	1	0
女 2	2	0	0	0	0	0
計 7	4	0	1	1	1	0

5 指定共同生活援助事業（定員27人）（グループホーム）

令和6年度もグループホームごとの特色を出し運営に当たった。

「こまざわハウス」では食事提供をし、居室の掃除、洗濯、金銭相談、各種手続きを利用者で行うなど手厚い支援をした。また、必要な利用者に対しては同行受診を行った。

「いなだの家」では、利用者ができることをより増やせるようにグループホーム内の掃除、夕食の片づけ等の当番活動を実施した。地域に馴染んだ生活ができるようにグループホームの周りの草取り、地区のゴミ当番、清掃へ参加した。

「のくとまーる」では、1週間に1回～2週間に1回、居室を訪問し生活の様子（食事、掃除、金銭の状況、薬、体調等）の確認をした。

サテライト型グループホームへの利用希望があり、新たに開設した。

1日平均利用者数は22.2人で前年度に比べ1.9人増となった。給付費収入は30,177千円で前年度に比べて1,470千円減となった。特別加算の対象者の加算期間が終了し、給付費収入減となった。

(1) 主な取り組み

ア 日常生活について

- ・調理、掃除、買い物、金銭管理、服薬確認等を補助した。
- ・家族、日中活動先等の連絡調整を行った。
- ・対人関係、日常生活の不安や課題へ相談支援を行った。

イ 地区交流事業について

- ・地区の清掃事業に参加（河川・側溝・公園・神社等）。

ウ 日常支援について

- ・日中世話人が住居を巡回して在宅の利用者の支援を行った。

(2) 実 績

ア 年度比較表

(人)

年 度	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者	新規利用者数	解約者数
令和5年度	7,395	20.3	22	5	5
令和6年度	8,104	22.2	27	3	2
比 較	709	1.9	5	△2	△3

イ 月別利用実績表

(人)

令和6年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開 所 日 数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延 利 用 者 数	628	674	652	678	701	674	691	688	704	700	632	682	8104
実利用者数/月	20	21	23	21	21	23	20	21	22	22	23	22	259
体験利用者数	0	0	0	1	2	0	1	1	1	0	0	1	7
平均利用者数/日	20.9	21.7	21.7	21.8	22.6	22.4	22.2	22.9	22.7	22.5	22.5	22.0	22.2

課題と今後の取り組み

- ・高齢な利用者に対しては本人や家族と相談しながら地域包括支援センターと連携しながら介護保険サービスの導入を検討していく。
- ・一人暮らし生活を希望する利用者に対しては一人暮らし生活ができるように助言、支援を引き続き行う。
- ・日中活動先に体調不良等で欠席した利用者に対して日中支援していく。
- ・長期入院する状態になる前に医療関係者と連携を取り、対応する。
- ・今後も新規利用者を積極的に受け入れていく。

資 料（令和 7 年 3 月 31 日現在）

年代別数 (人)

性別 数	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代以上
男 15	0	4	1	6	4
女 8	1	0	4	2	1
計 23	1	4	5	8	5

障害支援区分別数 (人)

施 設	区分 1	区分 2	区分 3	全体
こまざわハウス	0	6	4	10
い な だ の家	1	2	2	5
のく と ま ー ー	2	4	2	8
合 計	3	12	8	23

市町村別 (人)

長野市	千曲市	須坂市	佐久市	麻績村	小川村	信濃町	木島平村
14	3	1	1	1	1	1	1

6 指定自立生活援助事業（定員なし）（自立生活支援室）

今年度は 3 人に対して定期訪問し日常生活の見守りや金銭管理等、安定した一人暮らしの定着に向け支援を実施した。必要な時には同行をして支援した。生活面については居宅介護事業等必要なサービスを導入し地域での生活を継続できるように支援した。新たに一人暮らしを始め、本サービスの利用を希望する者が少なかった。実利用者数は 3 人で、任期満了のため利用者数は 0 人となった。給付費収入は 319 千円で前年度に比べて 445 千円減となった。

（1）主な取り組み

ア 状況確認について

- ・定期的な訪問・面接等により本人の生活状況を把握した。
- ・必要に応じ銀行や医療機関等へ同行し手続等を一緒に行った。

イ 相談について

- ・訪問及び面接時に困っていることや不安に思っていること等の相談を受け、解決に向けて一緒に取り組んだ。
- ・利用終了時を考え必要なサービスの情報提供や利用に向けての支援をした。
- ・手続き（公共料金の引き落とし・市役所での住所変更等）に同行し支援した。

ウ 関係機関との連絡調整

- ・相談支援専門員はじめ、日中の利用施設など関係機関との連絡調整を行った。
- ・課題等の解決に向けての話し合いを開いた。

(2) 実 績

ア 年度比較

(人)

年 度	実利用者数	新規利用者数	解約者数
令和 5 年度	6	3	3
令和 6 年度	3	0	3
比 較	△3	△3	0

イ 月別利用実績

令和 6 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均／合計
開 所 日 数	20	20	22	20	20	20	21	20	20	19	18	20	240 日
延 支 援 回 数	10	15	9	4	4	4	4	6	0	0	0	0	56 回
登録実人数／月	3	3	2	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1.1 人

課題と今後の取組

- ・グループホーム退所する利用者や宿泊型自立訓練の退所する利用者、病院から退院した利用者に対して、本サービスの情報を伝え利用者確保に努める。
- ・一人暮らし等新しい生活に慣れ、地域に馴染めるように重点的に支援をする。
- ・金銭管理の面で支援が必要な方に対しては早い段階で社会福祉協議会の日常生活自立支援事業利用の導入を図る。

資 料 (令和 7 年 3 月 31 日現在)

年代別

(人)

30 代	40 代	50 代	60 代	70 代
0	0	2	0	1

障害認定区分

(人)

なし	区分 2
0	3

市町村 すべて長野市

7 指定就労継続支援B型事業 ワークス上駒（定員34人）

屋内作業の受注は徐々に増えてきており、新たに新規の箱折り業者と契約をしたことから屋内作業の収入は増えた。

屋外作業に関しては清掃業務、除草作業の回数が減り収入は減となっているが、新規で民泊作業、ボーロの作業を開拓し収入減を最小限に抑えられている。

今年度の平均工賃は26,451円で前年度に比べ2,167円減少した。

新規での利用者が増えず退所者がいたため今年度の平均利用者数は27.1人と1.2人減少した。給付費収入は50,774千円と前年度に比べて868千円増となった。

（1）主な取り組み

- ・新規企業との契約。
- ・現状の利用者の日数と時間の増加
- ・養護学校の実習生の受け入れ
- ・ハローワークへの登録、求人情報の提示、就労継続支援A型への移行などの就労支援
- ・パンフレットを作り直し、関係機関へ配布

（2）実 績

ア 年度比較

（人）

年 度	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者数	新規契約者数	解約者数
令和5年度	6,792	28.3	36	6	9
令和6年度	6,542	27.1	38	2	1
比 較	△250	△1.2	2	△4	△8

イ 月別利用実績

令和6年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
開 所 日 数	21	21	20	22	18	20	22	20	20	19	18	20	241日
延 利 用 者 数	596	574	547	588	466	512	606	516	532	528	506	571	6,542人
実利用者数/月	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38.0人
平均利用者数/日	28.3	27.3	27.4	26.7	25.8	25.6	27.5	25.8	26.6	27.8	28.1	28.6	27.1人

課題と今後の取り組み

- ・新規利用者の確保
- ・養護学校の実習生や各機関へのパンフレット配布
- ・新規作業の開拓

資 料（令和 7 年 3 月 31 日現在）

年代別数 (人)

性別 数	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
男 26	1	4	3	7	8	4
女 11	0	2	1	0	4	4
計 38	1	6	4	7	12	8

月別工賃支給状況 (小数点以下切り捨て)

月	支給人員 (人)	工賃支給金額 (円)	
		月平均額	月最高額
4	38	18,242	47,690
5	37	18,923	50,410
6	36	17,000	47,660
7・賞与	37	48,401	120,880
8	35	16,528	39,280
9	36	18,236	38,130
10	36	19,999	57,050
11・賞与	37	59,196	130,111
12	36	14,836	30,700
1	38	14,326	41,850
2	37	15,210	44,820
3・賞与	38	56,646	145,119
平均月額		(R6 年度) 26,451 円	(R5 年度) 28,618 円

8 指定就労継続支援B型事業 ゆったりんどう（定員14人）

コロナ禍が過ぎ、数年ぶりに地元小学校の学校行事への参加のお声掛けをいただき、交流を持つことができた。今後も地域行事などに参加できるよう体制を作っていきたい。

就労継続支援B型事業所の新規開設などもあり、他の事業所へ移った利用者もいたため、1日平均利用者数は減少した。

利用者が安定して取り組むことの出来る作業の量の確保が厳しい状況であったため対応に試行錯誤した。

1日平均利用者数は13.0人で前年度に比べ0.7人減となった。給付費収入は24,266千円で前年度に比べ477千円減となった。

(1) 主な取り組み

- ・利用者の多様なニーズに合わせた作業と働く場の提供
- ・地域と連携した生産活動に取り組む
- ・外出等余暇活動などの充実

(2) 実 績

ア 年度比較

(人)

年 度	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者数	解約者数	新規契約者数
令和5年度	3,279	13.7	33	5	9
令和6年度	3,141	13.1	35	3	2
比 較	△138	△0.6	2	2	△7

イ 月別利用実績

令和6年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
開 所 日 数	21	21	20	22	18	19	22	21	20	19	18	20	241日
延 利 用 者 数	271	273	268	305	243	267	304	271	260	247	212	220	3,141人
実利用者数/月	26	28	28	28	29	28	28	29	28	28	26	26	27.7人
平均利用者数/日	13.0	13.0	13.4	13.9	13.5	14.1	13.9	12.9	13.0	13.0	11.8	11.0	13.0人

課題と今後の取り組み

- ・多様な利用者の多様な作業に対応できるスペースが必要になっている。
- ・建物の老朽化は対策を急ぐ必要があり、環境整備は急務。
- ・作業内容や量の確保、安定的に取り組める作業を提供していただける企業など、新規開拓をしていく。

資 料（令和7年3月31日現在）

年代別数

(人)

性別 数	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
男 16	0	2	5	3	3	3
女 12	0	0	2	6	3	1
計 28	0	2	7	9	6	4

月別工賃支給状況

月	支給人員 (人)	工賃支給金額 (円)	
		月平均額	月最高額
4	29	5,105	8,203
5	29	4,283	5,157
6	29	3,449	4,100
7	29	5,386	6,469
8	29	4,360	5,281
9	30	6,239	7,524
10	31	5,356	6,324
11	31	5,896	6,987
12	30	6,867	8,241
1	29	5,267	6,392
2・賞与	29	4,870	5,795
3	29	6,139	6,855
平均月額		(R6 年度) 5,268 円	(R5 年度) 4,985 円

9 指定就労定着支援事業（定員なし）（ワークス上駒 就労定着支援室）

就労継続支援のサービスを継続するための要件を満たせなくなったため、サービスは令和6年7月末で終了となった。契約していた利用者の期限が10月末までだったため期限までは訪問等の支援を継続した。

（2）実 績

ア 年度比較

（人）

年 度	契約者数	新規利用者数	解約者数
令和5年度	2	0	1
令和6年度	1	0	1
比 較	△1	0	0

イ 月別利用実績

令和6年度	4月	5月	6月	7月	平均・合計
開所日数	21	21	20	22	84日
延べ支援回数	2	2	2	2	8回
登録実人数／月	1	1	1	1	1人

1 0 指定一般相談支援事業（地域移行支援事業・地域定着支援事業）（相談室）

地域移行支援の依頼はあったもののサービスの利用までには至らなかった。地域定着支援では、令和5年度と変わらない登録者数だった。緊急時の支援としては、利用者の体調不良による対応を行った。

（1）主な取り組み

- ・地域移行支援（地域移行支援計画の作成等、地域生活移行のための相談、外出同行、障害福祉サービスの体験利用、体験的な宿泊支援）
- ・地域定着支援（地域定着支援台帳作成、連絡体制の確保、緊急時の状況把握・対応等）
- ・連携による地域生活支援（関係機関との連携強化）

（2）実 績

ア 地域移行支援

年 度	利用実人数	利用延月数	利用延人数	継続支援者数
令和5年度	1人	2か月	8人	1人
令和6年度	0人	0か月	0人	0人
比 較	△1	△2	△8	△1

イ 地域定着支援

年 度	利用実人数	利用延人数	緊急時支援
令和5年度	7人	74人	0回
令和6年度	7人	74人	2回
比 較	0	0	2

課題と今後の取り組み

- ・地域移行支援では、退院支援の実情に合わせて受け入れ体制について検討していく。
- ・地域定着支援では、利用者の高齢化に向けて検討していく。

1 1 指定特定相談支援事業（相談室）

令和6年度は、専任1人、兼務5人の相談支援専門員がサービス等利用計画の作成を行った。利用者のニーズにあわせた福祉サービスの支給とより本人の意向に合う事業所の利用に向け調整やサービスの状況の確認を行った。また、相談支援専門員やサービス管理責任者の更新研修などの管理を行った。

（1）主な取り組み

- ・生活全般に関わる一般的相談、電話・訪問相談、情報提供、関係者間の連絡調整
- ・サービス等利用計画の作成（サービス利用支援、継続サービス利用支援）
- ・専門性の更なる向上のため研修等に参加

（２）実 績

サービス等利用計画作成件数

（件）

	サービス利用支援	継続サービス利用支援
令和５年度	234	453
令和６年度	209	439
比 較	△25	△14

課題と今後の取り組み

- ・依頼があれば新規計画相談の受け入れをし相談件数の維持に努める。
- ・サービス管理責任者と相談支援専門員資格の更新研修受講の漏れが無いように管理していく。また、各資格研修を計画的に受講できるようにしていく。

１２ 指定居宅介護・重度訪問介護事業（定員なし）（ヘルパーステーションてくてく）

身体介護、家事援助、通院等介助、すべてにおいて利用回数は増加した。新規契約者が８人あった。解約者は入院、死亡等で２人、支援の必要がなくなった者が５人で実利用者数が３６人となった。

今年度、普段身体介護支援と一緒に家事を行っている利用者が、感染症罹患や手術後で買い物等できないため、家事援助支援を行うことが多かった。

新規利用者では、今は家族と同居しているが、今後の生活変化を考慮して支援を開始した。給付費収入は７,２０５千円で昨年度より１,５３２千円増となった。

（１）主な取り組み

- ・安定した地域生活の継続のために利用者へ日常生活及び社会生活の総合的支援
- ・調理・洗濯・掃除・買物・通院介助・その他必要な援助
- ・必要に応じて健康や日常生活上の相談や助言

（２）実 績

ア 年度比較

	実契約者数	延支援時間	延支援者数	新規利用者数	解約者数
令和５年度	30 人	909.5 時間	893 人	9 人	2 人
令和６年度	36 人	1,100 時間	1,078 人	8 人	7 人
比 較	6 人	190.5 時間	185 人	△1 人	5 人

イ 月別利用実績

令和6年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均／合計
開 所 日 数	21	21	20	22	18	19	22	20	20	20	18	20	241 日
延 支 援 時 間	89.0	78.0	81.5	98.0	75.0	92.5	104.5	98.0	89.0	99.0	94.0	101.5	1100 時間
登録実人数／月	28	28	28	28	29	30	30	29	28	30	31	31	29.2 人

課題と今後の取り組み

- ・相談支援専門員等と連携し、今後の生活状況変化を見据えて支援開始できるように取り組む。
- ・通院等介助支援で、通院時同行し、利用者状況の伝達と主治医からの指示内容が理解できるよう支援する。